



教育委員会では、栃木市の教育について、FMラジオというメディア媒体を活用した広報活動を行っています。

今年で4年目を迎えた「月刊 教育委員会」は、栃木市の教育のPRをねらいに平成29年度からスタートしたレギュラー番組です。

番組内容は、教育委員会内各課担当者や栃木市の教育に携わるゲストを毎回お呼びして、教育現場の様子や開催イベント等のお知らせが中心です。

今年度も、栃木市の教育に係る旬な話題をたっぷりお伝えするとともに、昨年度の台風19号による被害、現在のコロナ禍の中、市民の皆様へ元気と希望をお届けできるような放送番組にしていきます。

教育長通信 ～心と心は「ノンディスタンス」で～



「ソーシャル ディスタンス！」昼休みの校庭にあどけない声が響きます。

先生方からしっかりと指導されているのでしょうか。感染予防を意識して互いに注意し合いながら遊んでいる子供たちの健気な姿に、思わず目を細めてしまいました。3か月に及んだ臨時休校明け。しかも緊張感漂う中での学校再開とあって、ストレスを抱えたり登校を渋ったりする子も少なくないのでは…との心配をよそに、どの学校も予想以上に落ち着いた雰囲気の中でスムーズに教育活動をスタートできたとのこと。これもひとえに、子供たちの頑張りのもとより、先生方の努力と保護者の皆様のご理解・ご協力のお陰と感謝の気持ちでいっぱいです。

とは言え、学校のみならず、私たちの生活は元通りとはいきません。マスクの着用や小まめな手洗いの徹底をはじめ、多人数での集まりを避ける、となりの人との距離をとる、大声を出さない、対面で話したり食事したりするのを控える等々、様々な制限の中での生活です。いわゆる“withコロナ”の時代の「新しい生活様式」には、不自由さや寂しさを禁じ得ない向きも多いと思われます。しかし同時に、コロナ禍の中で私たちが気付かされたことも少なくないのではないのでしょうか。例えば、これまで恒例的に実施してきた行事やイベント、業務等の中止や簡素化を余儀なくされたことで、それらの意義や目的を改めて問い直す機会となったり、リモートによる会議や研修等を通じてICTの有用性を実感したり。一方で、人と人との直接的なふれ合いがいかにか私たちの心に力と潤いを与えてくれたかを、その機会が奪われてこそ気付かされたり……と。

まだまだコロナ禍の出口は見えませんが、“withコロナ”の中での気付きや学びを“postコロナ”の時代に如何に生かしていけるかが重要であると思います。そして同時に、みんながコロナ禍を乗り越えるために人と人との物理的な距離は意識しながらも、心と心の関係性は「ノンディスタンス」でありたいものです。

(2020年7月現在)
教育長 青木 千津子

【編集後記】

“教育委員会だより 絆”は市民の皆様へ、教育への関心を一層高めてもらうため、‘開かれた教育委員会’としての活動を「分かりやすく」「親しみやすく」紹介していきます。

※ご意見・ご感想はこちらまでお寄せください。

栃木市教育委員会教育総務課 〒328-8686 栃木市万町9-25 電話：0282-21-2461
FAX：0282-21-2689 Email：kyoumu@city.tochigi.lg.jp



「恐竜～花～疫禍（ウイルス）」



地球上で一番長く生存した動物に恐竜がいます。ヒトは誕生してから、まだ20万年しか経っていませんが、恐竜はヒトの800倍の1億6千万年という長きにわたって繁栄した動物です。ところが、今から6千5百万年前に突如地上から姿を消しました。絶滅に追い込んだのは、なんと「花」です。他の動植物との“もちつもたれつ”の共生関係を選ばず、地上全ての草花や森までを一方向的に食い尽したことが主な要因とされています。

地球は度々悲鳴を上げてきました。その度に、恐竜化していくヒトを覚醒させるために、疫禍や巨大地震や巨大隕石の衝突。さらに、地球温暖化による

異常気象、大洪水、冰山や永久凍土の融解に伴う冷凍マンモスなど古代動物の死骸表出と、そこから大量に発生するメタンガスや二酸化炭素や古代ウイルスによる新たな危機等々を次々と起こしてきました。一方、化石資源を地中から掘り出すことで産業革命が起こり、ヒトの生活は飛躍的に豊かになりました。その化石燃料も今世紀中には枯渇してしまいます。ヒトは大昔から自然と対話・共生しながら次世代へと命の櫛をつなげてきました。しかし、海を埋め立て森林を削り、家を建て町を創る過程で自然との共生意識が薄れてしまったのです。住み家を失った猿や猪、熊たちはヒトの生活圏に近づくことで命をつなげています。私の自然観が確立した書に「狼森と叢森、盗森」（作・宮沢賢治）があります。都を追われた百姓大家族が深い森に逃げ込み『おーい森さん！家を建てるので、木を4本切ってもいいかー』『川さん！食糧用に魚9匹捕っていいかー』など自然と対話しながら、生活を創っていく物語です。私たちヒトも運命共同体としての自覚をもち、地球に優しい人間の生き方を根本から見つめ直すことが急務だと考えます。そのためにも、まずは、地球からの声に耳を傾ける謙虚さが必要ではないでしょうか。

教育長職務代理者 後藤 正人

栃木市教育のスローガン

「ふるさとの風土で育む 人づくり・まちづくり」

～とちぎ未来アシストネットの推進～

‘とちぎ未来アシストネット’とは、学校・家庭・地域の連携により、地域ぐるみで子供たちの「生きる力」を育むとともに「地域の活性化」を図る本市独自の教育システムです。



特集

学校における新型コロナウイルス感染症対策



市内の公立小中学校では、今年3月から3か月間にわたり臨時休校が続きました。6月から再開された学校には、子供たちの明るい笑顔が戻りましたが、長い休校期間中をはじめこれまでに、子供たちや保護者の皆様、市民の皆様には、多大なご心配とご負担をお掛けしました。

本特集では、市民の皆様にも少しでも安心して頂けるように、学校での新型コロナウイルス感染防止の対策を紹介いたします。

朝の検温確認や体調チェック表を用いた健康観察をしています！

学校では、毎朝行う子供たちへの健康観察をとて大切にしています。

6月の学校再開当時には、登校してきた子供たち一人一人に対して昇降口前で体調チェックをしていました。

現在は各教室において担任が細かく観察していますが、毎日の検温等お家の方々にもご協力頂いています。



ソーシャルディスタンスを保った、手洗い等をしています！

子供たちは、学校生活の中でこまめに手洗いをしています。

その際にソーシャルディスタンスが保てるよう、各学校で並ばせ方の工夫をしています。



使い捨て手袋を使用し、給食配膳をしています！



給食の時は、市教育委員会から配布された丈夫で破れにくい使い捨て手袋を使用して配膳を行っています。

また、全員前向きで、机の間隔を空けながら食事をしています。

前向きで、間隔を空けた机で給食を食べています！

この数か月、子供たちや保護者、先生方、それぞれに様々な苦勞や不自由を強いられました。同時に本当に大切なことや見えなかった幸せに気づく機会にもなりました。学校に行くこと、リアルに会えること……。

この日々を通じ、私たちは全てにおいて精選し、変化し、進化を遂げていくべきなのだと思います。ぜひ、家庭や学校でこのチャンスを活かし、子供たちの考える力を伸ばす学びの機会を与えていってほしいと考えます。

教育委員 大橋 孝子

子供たちが下校した後、教職員による消毒作業が行われています。

子供が触れそうな多くの場所を丁寧に消毒することにより感染防止に努めています。



教職員が校内の消毒をしています！



「子供たちに夢を与え続けること」それはいつの時代でも大人たちに与えられた最低限の使命だと思う。新型コロナウイルスの影響で夢や希望を見失い、不安と焦りから眠れない夜を過ごす子供たちも多い。大きくて熱いエネルギーの塊である夢、その夢を決して諦めさせてはならない。今こそ子供たちに精一杯の優しさを贈ろう。その「優情の記憶」は、子供たちの手によって次の世代に引き継がれていくはずだから。

教育委員 福島 鉄典



全人類はいつからカピバラになったのかと思うほど、全員がマスクをしているので、みんな口ごもっています。だから本当は、マスクをしている人に口ごもりはありません。大きく口を開けないと、相手に聞こえないからです。息をいっぱい吸い込んで、YesかNoかを堂々と言います。そのあとにはその理由を付け加えます。こんなふうにも、よく考える勉強、強く発言する訓練ができるようになります。マスク転じて福となす。

教育委員 林 慶仁

栃木市教育ニュース



栃木市教育委員会では、生涯学習を基盤とした社会の構築を目指して、本市ならではの教育を推進しています。今号の『栃木市教育ニュース』では、今年7月に開館いたしましたキョクトウとちぎ蔵の街楽習館（栃木市市民交流センター）について市民の皆様にお知らせします。



キョクトウとちぎ蔵の街楽習館（栃木市市民交流センター）が開館しました！



国の交付金事業「地方都市リノベーション事業」を活用し、旧栃木中央小学校校舎を改修し完成しました。

「市民が集い、活動し、学び、発信し、交流する拠点」をコンセプトに、市民の生涯学習やまちづくり・地域づくり等につながる活動を支援するための施設として、様々な企画や仕掛けづくりを行い、市民参加による相乗効果により、魅力・活力・賑わいの創出を目指します。

★主な諸室（一部をご紹介します）

- スタジオ バンド演奏（機材設置）
- 大交流室 大人数の会議や研修
- 軽運動室 運動や体操
- 創作室 生花、工作など創作活動
- 音楽室 楽器演奏（ピアノ設置）
- ギャラリー 市民・団体の作品展示

※その他、誰でも自由に利用できる交流スペースや学習室などもあります（予約不要）。



貸出施設を利用する場合は、使用する日の7日前までに窓口での申請をお願いします。

なお、仮予約は電話（☎24-0352）やインターネット（事前登録が必要）でも受け付けることができます。

新校舎への移転に伴い、暫く空き状況になっていた旧栃木中央小学校校舎が、「キョクトウとちぎ蔵の街楽習館（栃木市市民交流センター）」として、素晴らしく生まれ変わりました。

この楽習館には、コンセプトにもあるように、私たち市民が自らの手で、栃木市の魅力、活動、賑わいを創りだしていけるような交流スペース・学習室・会議室・スタジオ・ギャラリー等の充実した空間が整備されています。

現在は新型コロナウイルスのため、制限されている部分がありますが、ぜひ皆さんも楽しいひとときを交流センターでお過ごしください！

教育委員 西脇 はるみ

「キョクトウとちぎ蔵の街楽習館（栃木市市民交流センター）」は、市民の皆様の誰もが、イキイキと生涯学習や市民活動などの様々な活動に利用できる、魅力のたくさん詰まった施設です。

1階の交流スペースはとても広く、子供の遊ぶスペースやテーブル配置も工夫がされていて、ソーシャルディスタンスもきちんと保たれています。

『楽習館』という名前の通り、大勢の方々で楽しく習い、たくさんの輝く笑顔が弾ける場所になりそうです。

教育委員 館野 知美